

# 新任教務主任研修講座について

小川卓也

## 1. はじめに

転勤初年度に教務主任を勤めるに当たっては、実に多くの先生方からご協力をいただくことができた。この場を借りて厚くお礼申し上げます。新任教務主任研修講座は、総合教育センターにて計3回行われたが、同じ立場にある他校の先生方と意見を交わすことにより、その学校の実態や課題を学び、本校との共通点や相違点を見いだすことができた。以下に、その研修内容を紹介したいと思う。

## 2. 研修内容

第Ⅰ期では、教育長各課の重点施策を概観し、秋田県の教育に関する現状を学ぶことができた。また、そもそも教務主任が負う役割とはどのようなものなのか、ということについても理解を深めることができた。時間割の編成、生徒の学習に対する評価の実施、高校入試に関する業務等多岐に渡るが、分掌部員や教科・学年の連携を促しながら又は協力を得ながら、業務を遂行したいと考えた。

第Ⅱ期では、カリキュラム・マネジメントや学校運営に生かすコーチング・マインドを学んだ。カリキュラム・マネジメントとは、「組織的かつ計画的に学校の教育活動の質の向上を図っていくこと」であるが、組織的かつ計画的にマネジメントする際に、教科・学年・分掌の橋渡しを担うのが教務部であるということであった。

第Ⅲ期では、情報モラル、学校の組織力向上等を学んだ。第Ⅱ期でカリキュラム・マネジメントについて学んだが、マネジメントするに当たっては生徒・社会の現状を理解しておく必要がある。我々が、スマートホンの使い方や巻き込まれるトラブルの種類等を理解しておかなくては、目標の設定もあやふやになってしまうのではないかと思う。また、高校の教育に求められているものの一つに「生徒の多様な学習課題を踏まえた教育課程の編成」があるが、たとえば新教育課程を編成する際には、義務教育段階の学び直し場を設けることも念頭に置く必要があるのかもしれない。

## 3. 最後に

これまでも教務部に所属したことはあり、それなりに分掌業務の内容をわかっていたつもりではあったが、主任になって初めて知ることも多く、今年度は自分自身にとっても非常に有意義な一年であった。ここで学んだことは、教務部だけではなく授業をはじめとする学校現場の多くの場面で活用できるものであり、業務を遂行するための視野を広げることができたのではないかと感じている。次年度以降も、この緊張感を忘れずに、職務に励んで行きたい。